



かぜをひいたとよく言いますが、かぜというのはもっとも日常的でよく知られている疾患といえるでしょう。私たちが普段かぜといっているのは「かぜ症候群」といって、種々の原因によって起こる呼吸器の急性炎症性疾患の総称です。臨床では炎症の部位、発熱や全身状態の違いからいくつかの病気に分けることができます。

代表的なものは...

- 普通感冒 くしゃみ、鼻水などの鼻炎症状が中心で、発熱はあっても軽度(37℃台の微熱がほとんど)である。様々なウイルスで起こり、かぜ症候群の中でもっとも頻度が多い。
- インフルエンザ インフルエンザウイルスの感染で起こり、急激な発熱(38~40℃)とともに発症し、頭痛、悪寒、筋肉痛、食欲不振などの全身症状が出現し、4~5日遅れて、鼻水や咳などの症状が出る。

その他に「急性咽頭炎・扁桃炎」、「気管支炎」、「肺炎」などもかぜ症候群として扱われています。

治療方法は...



かぜ症候群は種々のウイルス感染が原因になることがほとんどですが、現在これらのウイルスを殺す効果的な薬はありません。

- 治療の基本は.....
「安静、保温、睡眠、栄養」が一番です。ただし、「かぜ症候群によるつらい症状」を軽減するために、対症療法を行うこともあります。
- 比較的全身症状が軽度なときは.....
熱が38℃以下ぐらいで、総合感冒薬(PL顆粒やダンリッチ)が処方されます。
- 症状がひどいときは.....
その症状にあわせて、右下の表のような薬が処方されます。
- 発熱については.....
熱がウイルスの発育増殖を抑制する有用性もあるため、ぐったりするような高熱が出ている場合に解熱剤が処方されるようです。

- インフルエンザについては.....
ワクチン接種による予防策や、感染後比較的早い時期であれば、感染したインフルエンザウイルスが増えるのを抑え、症状の悪化を防ぐ薬(リレンザやタミフル)による治療を行うことができるようになり、他のかぜ症候群よりも、より積極的治療が行われるようになりました。

症 状	対症療法薬	代表的薬剤
発熱・頭痛・ 筋肉痛	非ステロイド性消炎 鎮痛剤	イブプロフェン
		ナプロキセン
		ロキソプロフェンナトリウム
鼻汁・ くしゃみ	抗ヒスタミン剤	クロルフェニラミン
		フマル酸クレマスチン
鼻閉	点鼻血管収縮薬	硝酸ナファゾリン
		塩酸テロラヒドロゾリン
咳・痰	鎮咳薬	リン酸コデイン
	去痰薬	塩酸アンブロキシオール
	気管支拡張薬	テオフィリン
のどの痛み	含嗽薬	ポピドンヨード